

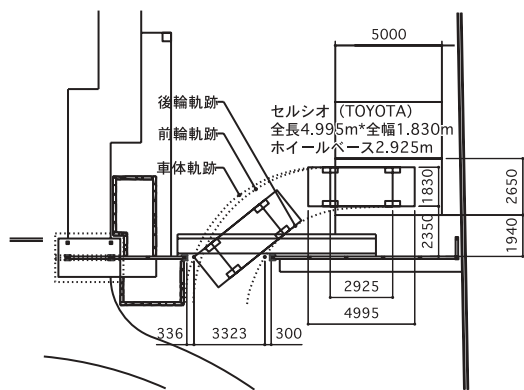


つくばいの景  
2代目サルスベリ(枯れた親木をそのままに子木が大きく成長した)の根下に石白型の手水鉢を配したつくばいが主景をつくっている

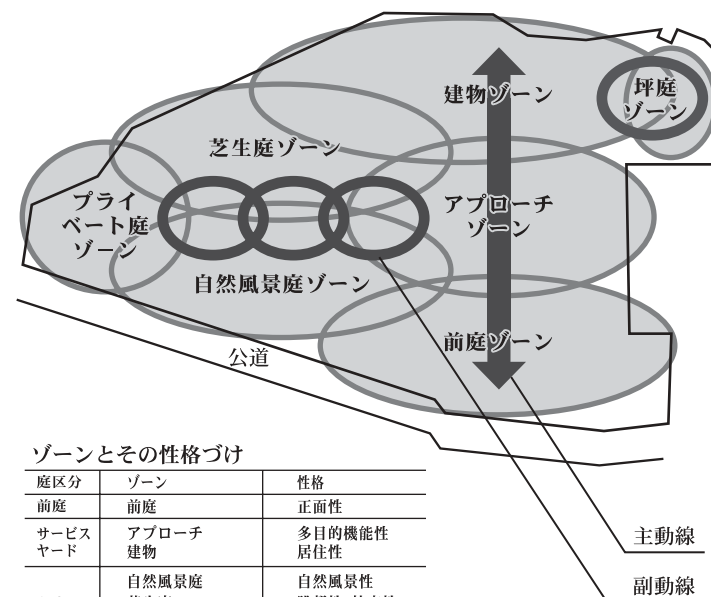


門前のイメージパース

最も塀寄りの駐車スペースから、車が切り返しなしで外部へ出ることが出来るように門の位置と開口幅を求めた。TOYOTAセルシオの車輛寸法を使って図のように車輛軌跡をシミュレーションすると、開口幅3・959mのとき軌跡両側に計63・6cmの隙間ができる。



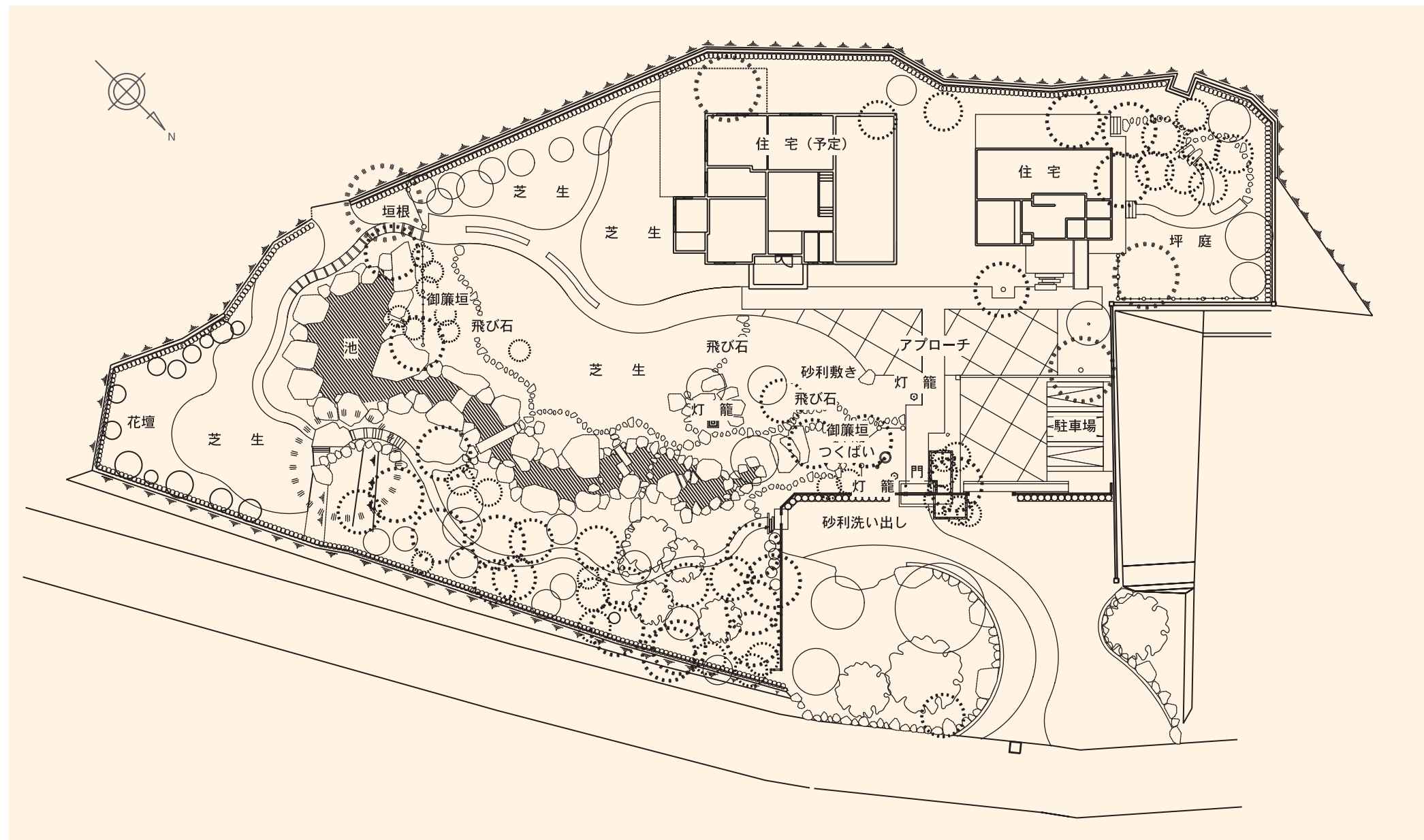
車両動線検討図



ゾーンとその性格づけ

| 庭区分     | ゾーン         | 性格            |
|---------|-------------|---------------|
| 前庭      | 前庭          | 正面性           |
| サービスヤード | アプローチ<br>建物 | 多目的機能性<br>居住性 |
| 主庭      | 自然風景庭       | 自然風景性         |
|         | 芝生庭         | 眺望性・社交性       |
|         | プライベート庭     | 趣味性           |
| 坪庭      | 坪庭          | 閉鎖性・生態性       |

ここで思い描く庭園のイメージをより具体的なカタチにするために、眺望、高低、方位、日照などの土地条件と人がどう動くかといった動線の2つに注目して、それぞれ7つのゾーンに分割してみた。  
左図をご覧いただくと分かりやすい。まず公道から建物までが主動線で、人と車が頻繁に往来するメイン道路と考えていい。この主動線は、それぞれ前庭ゾーン、アプローチゾーン、建物ゾーンをほぼ直線に結んでいて、できれば玄関前に車がつけられ、かつ前庭ゾーン、アプローチゾーンのそれぞれに数台ずつの駐車スペースを設けたい。  
次に主庭では、これをそれぞれ3分割して自然風景庭ゾーン、芝生庭ゾーン、プライベート庭ゾーンとした。これらはそれぞれに独立した景と機能を持つが、いずれも回遊園路で結ばれ連続して歩きめぐることがでる。



平面プラン